

(参考) SDGs と施策との関係

- 本計画では、SDGs の考え方を活用し、環境課題に対する施策の方向を示します。
本計画に掲げる各施策とSDGs の17のゴールの関連性は、下表のとおりです。

	1  貧困	2  飢餓	3  健康と福祉	4  教育	5  ジェンダー平等	6  水・衛生	7  エネルギー
1 持続可能な社会をけん引する人づくりと県民総ぐるみによる運動の展開		○	○	◎		○	○
(1) 環境問題を「自分ごと」と捉えるための意識改革の促進等		○	○	○		○	○
(2) 担い手の発掘・育成と活躍できる環境づくり		○	○	○		○	○
(3) 学習機会の充実		○	○	○		○	○
(4) パートナーシップの充実・強化				○		○	○
2 気候変動対策による環境と成長の好循環（グリーン成長）の実現		○	○	○		○	◎
(1) 気候変動対策の緩和策の推進			○	○			○
(2) 気候変動の影響への適応策の推進		○	○	○		○	
(3) 成長戦略としての環境の取組みの推進		○	○			○	○
3 再生可能エネルギーの導入拡大による地域の活性化				○			◎
(1) 大規模事業の県内展開促進							○
(2) 再生可能エネルギーの地産地消							○
(3) 地球温暖化対策としての再生エネの導入拡大・利用促進							○
(4) 地域資源活用による経済循環及び地域課題の解決							○
(5) 災害対応力（レジリエンス）の強化							○
(6) 自然環境や歴史・文化等との調和を図った再生エネ導入促進				○			○
4 3Rの推進による循環型社会の構築		○	○	○		○	○
(1) 資源循環型社会システムの形成		○	○	○		○	○
(2) 資源の循環を担う産業の振興				○			○
(3) 廃棄物の適正な処理による環境負荷の低減			○	○		○	
5 生物多様性を守り、活かす自然共生社会の構築		○		○		○	○
(1) 生物多様性の保全		○		○		○	
(2) 自然環境との共生			○	○		○	
(3) 環境資産の活用・継承		○	○	○			○
6 良好な大気・水環境の確保と次世代への継承			◎	○		◎	
(1) 大気環境の保全			○				
(2) 水環境・水資源の保全・活用			○	○		○	
(3) 土壌環境・地盤環境の保全			○			○	
(4) 化学物質の環境リスクの低減			○			○	
(5) 公害被害等の防止と解決			○			○	

※90 ページと 91 ページは見開きにしてご覧ください。

それぞれの施策の柱において、特に関連性のあるゴールを◎で表示しています。

8 経済成長 と雇用	9 イノベーション	10 不平等の 是正	11 安全な 都市	12 持続可能な 消費と生産	13 気候変動	14 海洋・ 海洋資源	15 陸域生態系・ 生物多様性	16 平和と 公正	17 パートナ ーシップ
○	○		○	○	○	○	○		◎
○	○		○	○	○	○	○		○
○	○		○	○	○	○	○		○
○	○		○	○	○	○	○		○
○	○		○	○	◎	○	◎		○
○	○		○	○	○	○	○		○
○	○		○		○	○	○		○
○	○		○	○	○	○	○		○
○	◎		◎	○	◎	○	○		○
○	○		○		○				○
○	○		○		○				○
○	○		○		○				○
○	○		○	○	○				○
○	○		○		○	○	○		○
○	◎		◎	◎	○	◎	○		○
○			○	○	○	○	○		○
○	○		○	○					○
○			○	○	○	○	○		○
○	○		○	○	○	○	○		○
○	○		○				○		○
			◎	○	○	◎	○		○
			○	○	○				○
				○		○	○		○
			○	○					○
				○					○
			○	○					○
				○					○

【コラム】若者向け環境SDGsワークショップ



本県では、脱炭素社会の実現に向け、次世代を担う高校生や専門学校生、大学生等の若者を対象に、体験型学習プログラム「若者向け環境SDGsワークショップ」を実施しています。ワークショップの開催を通して、若者が「環境・経済・社会」の相互の関係を踏まえた環境問題への理解を深め、環境問題を「自分ごと」として捉えることで、意識変革や具体的な行動へつなげることを目的としています。

このワークショップは、「SDGs（環境分野）」や「カーボンニュートラル」、「地球温暖化」、「気候変動適応」の中から参加校が希望するテーマを選択することができます。また、グループワークやゲーム、実験を取り入れるなど、参加者が自ら考え、意見を述べ、参加者同士が多様な考えを共有できる場となっています。



参加者からは、「想像以上に環境問題は深刻で、生活をよりよくするためには、自分の行動を見直す必要がある」、「環境に配慮した行動は、私にできることから始めれば、いつか世界につながると思った」、「環境は政府や国が行動するものと考えていたが、身近なところでも行動できると思った」などの声が寄せられています。ワークショップ参加を通して、若者の環境問題への理解促進や意識の変革が見られています。

また、「SDGs（環境分野）」、「カーボンニュートラル」、「地球温暖化」、「気候変動適応」など環境に関するテーマで日頃から実践や普及啓発活動、調査・研究等に取り組む若者が、日頃の成果を発表する場も設けています。発表会を通して、若者たちは知識・経験を共有し、活動を活性化するなど、学びを深める機会となっています。